

核物質管理センター ニュース

NUCLEAR MATERIAL CONTROL CENTER NEWS

第62回国際原子力機関（IAEA）総会について

核物質管理センター 企画室



IAEA第62回総会が2018年9月17日から21日までの5日間、IAEA本部において開催されました。

IAEAでは総会に関する情報をウェブサイト¹に公開しており、本誌はそれを基に保障措置に関連する動向に関する情報を中心に概括します。このほか当該会議については外務省のウェブサイト²からも関連情報を入手できます。

1. 第62回総会の概要

IAEAにおける最高意思決定機関である総会は国際原子力機関憲章第5条に基づき開催される。理事会は、通常、同条Eに従い、主に①理事国の選出、②加盟国の承認、③加盟国としての特権及び権利の停止、④理事会の年次報告の審議、⑤理事会が勧告する予算の承認、⑥事務局長の任命に関する承認を行うほか、同条Dが定めるように機

関の権能及び任務に関する問題若しくは事項を討議し、加盟国若しくは理事会又はその双方に対し勧告を行うことができるとされている。

目次

●第62回国際原子力機関（IAEA）総会について	1
●国際原子力機関（IAEA）年報2017年版の概要（保障措置について）	7
●第9回包括的核実験禁止条約（CTBT）フレンズ外相会合について	13
●ウィーン滞在記 ^②	15
●動静・NMCCのページ・編集後記	16

¹ <https://www.iaea.org/about/policy/gc/gc62/2018-09-21>

² https://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/n_s_ne/page22_003072.html

動 静*

2018.11.5～7 CTBT準備委員会第51会期（オーストリア、ウィーン）
2018.11.5～9 IAEA国際保障措置シンポジウム（オーストリア、ウィーン）
2018.11.19～23 IAEA理事会（オーストリア、ウィーン）

2018.12.3～7 放射性物質のセキュリティに関する国際会議（オーストリア、ウィーン）
2019.6.24～28 使用済燃料管理に関する国際会議（オーストリア、ウィーン）

*ここに掲載している会合等は必ずしも全てが公開参加型とは限らないことをお断りします。また、2か月先までのスケジュールについて網カケ表示しています。

NMCCのページ

1. 中央官庁からのご来訪について

最近のトピックスとして以下のとおり中央官庁から当センターへのご来訪がありました。

- (1) 平成30年9月21日：
原子力規制委員会原子力規制庁新人研修の一環として東海保障措置センターご視察
- (2) 平成30年10月19日：
原子力規制委員会伴委員他10名が六ヶ所再処理施設オンサイト分析所ご視察
- (3) 平成30年10月23日：
外務省が六ヶ所再処理施設オンサイト分析所ご視察

2. 韓国原子力統制技術院 (KINAC: Korea Institute of Nuclear Nonproliferation and Control) との年次会合

平成30年10月18日及び19日にKINACとの年次会合が開催され、情報交換に関する協定の改訂等が行われました。この詳細については今後本誌にて紹介させていただきます。



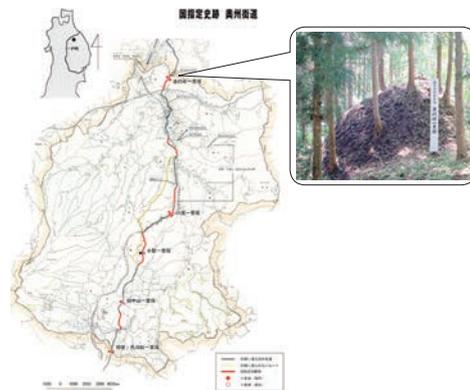
編集後記

本誌2018年8月号 (Vol.47 No.8) は五畿七道、とりわけ東海道と東山道について紹介し、平安時代初期の東北の雄・阿弓流為とそれと刃を交えた坂上田村麻呂をとりあげました。

時代は下り、江戸時代に入ると徳川家康が国内の街道整備に着手します。かつての東山道は、日本橋を起点として函館（当時は箱館）を終着点とする奥州道中（奥州街道として人口に膾炙していますが、これが正式名称）へと変容しました。

今日、岩手県の岩手町と一戸町の間の旧街道8.86kmは文化庁から国の史跡として指定を受けています。明治時代になって奥州道中を基盤として国道四号線が整備されましたが、この区間は整

備されることがなく、別のルートが四号線になったそうです。その結果、往時の面影が残され、貴重な歴史的遺産としての価値が認められることになったのでしょう。この区間には4つの一里塚（浪打峠、川底、旧中山、御室・馬羽松）が往時のままに保存され、これらは文化財として県の指定を受けています。



国指定史跡・奥州街道と一里塚
（一戸町ウェブサイトより）

江戸時代に整備された五街道とはご存じのように、東海道、中山道、奥州道中、日光道中（宇都宮から分岐）、甲州道中（中山道と合流するまでの区間）ですが、宿場の数は順に、53、69、114（うち17は日光道中と重複）、21、37なのだそうです。

奥州道中の宿が格段に多いのは距離が長いのですが、参勤交代にあたっては南部藩をはじめとする東北地域の各藩による道中の苦勞が偲ばれます。参勤交代では海路の利用は可能であったものの、藩主の遭難を避けるためにもっぱら陸路が利用されたそうです。

旧街道を歩いてみると様々な時代の様子が窺われ、そうした時間の流れの末に今に至っていることがわかり、興味は尽きません。（企）



道標（栃木県・旧芦野宿界隈）